

「持続可能なものづくりのまち」を目指して

総務産業常任委員会



エアリークビューアーでガス漏れなどを発見できる。
（長野県工業技術総合センターにて）

総務産業常任委員会は8月5日（月）にさかきテクノセンター及び松本市にある長野県工業技術総合センターを視察した。さかきテクノセンターは開館から30周年を迎え、2050ゼロカーボンや持続可能な社会を達成させるために、ZEB化事業を行っていく。

（25%以下まで削減）に取り組む方向で準備を進めている。今後、さらに脱炭素への取組が加速していくのは必須で、それをチャンスと捉え、「持続可能なものづくりのまち」の実現に向け、歩みを進めるとの話があった。

長野県工業技術総合センターの環境情報技術部門は、A I I O T活用や脱炭素化の促進、また人の動作計測・デザイン支援などを行っている部署であり、県の研究機関として県内企業の課題解決力や競争力の強化を図っている。

今回視察をしたそれぞれの施設は、脱炭素、SDGsをさらに促進するために、事業を行っていることがわかった。

町は県と連携しながら「持続可能なものづくりのまち」を目指していると強く感じた。

（山城 峻一）

天竜川総合学習館かわらんべ

社会文教常任委員会



かわらんべ屋上より天竜川河川敷を望む



◀「かわらんべ」ホームページはこちらから

社会文教常任委員会は7月30日（火）に天竜川総合学習館 かわらんべ（以下かわらんべと表記）を視察した。

かわらんべ設立は平成14年7月に国が設置。飯田市と共同管理運営の施設で常駐スタッフは4名である。

飯田市の川路・龍江・竜丘地区の治水対策事業の完成に合わせ、水災害の防災拠点として開館した。三六災害に学ぶ天竜川の水害の歴史、治水の足

跡を継承する常設展示、流域の自然や環境学習の場としている。近隣の住民や地元の研究者、ボランティアスタッフの協力で、土日を中心に年間100回以上「かわらんべ講座」が開催されている。

また、関連組織として一般社団法人飯田天竜川環境整備公社による・河道堆積物の掘削及び砂利採取・河川環境美化・河川環境保全思想の普及啓発・自転車貸出、自転車道の管理などの協力と財政面の支援も受けている。

かわらんべで行われる講座やイベントは、ボランティア活動によりコミュニティとして形成されている。他の地域には、類を見ない積極的な取り組みであり、地域住民の防災意識の高さが伺える。防災を起点にした地域住民とのコミュニティ形成のあり方は、参考に研究していきたい。

（水出 康成）